

第14回東京都北区新庁舎建設基本計画専門家会議 概要

- 日時 令和4年10月17日(月) 18:00~20:00
- 場所 テレビ会議
- 次第
 - 1 開会
 - 2 議事(1) 新庁舎建設基本計画(案)について
 - 3 その他
 - 4 閉会

●会議概要

1 開会

2 議事

(1) 新庁舎建設基本計画(案)について

- 事務局から、新庁舎建設基本計画の編集作業の進捗状況について説明があった。
- 委員意見等
 - ・ 高台から低地へ移転する内容のコラムについて、高台への避難について敢えてここまで書くのであれば、垂直避難という言葉を入れた方が良いかと思う。新庁舎で、垂直避難でひと段落ではないが、新庁舎でグラウンドレベルから上がって、そして飛鳥山の方へ、ということなので、垂直避難という言葉を入れても良いかと感じた。
 - ・ 地震の被害想定は、令和4年5月の東京都の新しいものに差し替えて頂きたい。「東京湾北部地震」という言葉をやめてしまっている。
 - ・ 建物に必要な性能の業務継続性の項で、浸水対策という言葉を使っているが、浸水対策の一つ前は耐震性。うまく対応する様な言葉だと、直接的には耐水性だが、それだと水を入れないというニュアンスが強い。浸水対応型市街地という取り組みが、高台まちづくりの中でも1つ継続されているので、浸水対応性とかいう感じではないか。
 - ・ コラムはもう少し明確に書いてもいい部分があると思う。遠慮が言葉や表現にも出ている様なところがあるので、整理しないと、読んだ人がわかりにくいかもしれない。コラムはコラムなのだから、きちんとわかりやすく、はっきり書くところは書いてもいいのではないかと思う。
 - ・ 区民交流・協働推進機能は、本文で、にぎわいがあって、交流があって、協働があって、にぎわいはこの3つの入り口として、皆さんに来て頂いて、そこから交流や協働に繋がっていくと書いてある。そこが赤を基調としたカラーを使ってやさしく作られているので、コラムでも、皆が幸せになる、楽しくなる様な場所を作りますという風にストレートに書いていいと思う。

- ・ 各階の条件設定、施設及び動線のところで、エレベーターといったものは、待ち空間、待ち時間になる等で色々大変。縦動線の考え方で、執務時間をエレベーター待ち等で阻害されない様に、交流が生まれ、協働が生まれる様な、有効な動線計画を行っていくといった、何かもう少し前向きな動線計画の設定をしてはどうか。
- ・ 基準階について、フロアを大きくして、横に連携させていくというのが今の流行り。分散コア等にもしている。階高とフロアの面積を調整しながら、その時代に合った有効な方策を考えます、と書くのもいいのではないかな。
- ・ 設計者選定においては、広くデザインを集めながら、住民にも参加してもらって、コストを守りながら、可能性を開いていく。プロポーザル等で、オープンに設計者を選定していきながら、ディスカッションをしていく。最適な設計者と、最適な解決策を採用する様に心がける。それ位の言葉はあって良いと思う。
- ・ 区民交流・協働推進機能のコラムに関しては、サイレントマジョリティーはにぎわいの創出が良いと思っていると思う。サイレントマジョリティーが良いと思っていることを消してしまうのではないかな。普通に書いた方が良い。
 また、オンラインで、もう会わなくてもいい様な、そういう世界の中で、執務も、市役所の窓口も、どんどん離人化する。それでもここに来て何かするということの価値をちゃんと抱きしめながら、効率化できるところはどんどんオンライン化して、効率化していくというメリハリをつけるという文脈であれば、伝わるのではないかな。
- ・ せっかくの報告書がつまらないものになってしまわないか、骨太でいいのではないかなということも伝えたかった。
- ・ ずっと議論している中で、設計者選定をプロポーザル等でやるという事で、あまり創造性を縛らない様にしようという意見があって、随分そういう形になってきているのではないかな。表現としては難しいところもあるが、読む人が読めば、割とフレキシブルなのだ、あまりガチガチに縛っていないのだという様な感じになっていると思う。
- ・ 前回会議では、鎌倉市の事例で、基本構想から基本計画の段階で面積を減らす努力をしていた。その点では、かなりの文字数を割いて、課題のクリアに必要な検討と、これからの社会情勢、コラムまで含めて書いているので、前回の疑問点については、十分な説明がされているのではないかなと感じた。
- ・ 区民交流・協働推進機能の、にぎわいから交流が生まれて協働が生まれるというのは、凄く理知的な説明というか、凄くコンセプショナルなものを作るための説明だなと思った。多分、この辺に違和感を持つ方もいるかなと感じた。民間の計画を作っていると、ここに出てくる言葉は、ブランディングだとか、顔を作るとか。やさしさみたいな曖昧な言葉も見られるが、めざすべき庁舎像を具現化する様なといった、意味が揺らがない様に説明するよりは、必要な機能や空間以外に、庁舎として顔を作

る意義とか、これからの庁舎、北区の目指すべきコンセプトの体現とか、もう少し柔らかい表現を置いておいてもいいかと感じた。

- にぎわいというものは、商業施設を入れるだけではないのだと言いたいのだと思う。にぎわいと交流の図が、非常に大きな目玉だという様な言い方にした方が、多分よいのではないかと。それが金儲けに限らないと言っていることになるので、直接言わなくてもいいかもしれない。
- 執務機能の図で、将来的な変化に対応する例ではA、B、Cが混在しており、イメージとしてはわかるが、どういう意味なのかわかりにくいので、きちんと説明ができる様にした方が良い。これを基にして設計提案が出てくると思うので、説明がきちんとできる様な形にした方が良いのではないかと。私は、これを見ても説明ができない様に感じている。色々な課がごちゃごちゃに混ざるといったイメージはわかるが、どういう事を想定しているかわからない。この辺はもう一度工夫して頂きたい。
- 環境性能で、地上部の積極的な緑化とあるが、最近庁舎も含め、色々な公共施設で低層部分を立体的に緑化している。北区でも、二階部分に、防災・バリアフリーネットワークの話が新たに出てきた。そういうものと絡めると、いわゆる壁面緑化ではなく、テラスみたいなものが外に出て行って、そこを緑化していく様なイメージもあると思う。地上階だけに限定してしまうことになるので、表現としてひと工夫して頂きたい。
- 概算事業費について、コストが上がり続けている中で、建設費の問題が本当にこのままスムーズにいくのかというのが、単純に一番気になっている。この規模で、10年もかかる計画の中で、単純に今の日本の建設単価から割り出したものそのままいくかもわからない。時期的には気になるところだが、そもそもそういうことを書くべきなのか。
- 書かない訳にはいかないし、ここで確定させることもできない。非常に微妙になってくるところだが、多分、これに関して、区民の方々等はやはり相当、関心があるところだと思う。
- 防災・バリアフリーネットワークは必ず必要だということなのか。王子駅のまちづくり、ウォークアブル・ガーデンからは、重要性、意義がそれ程醸し出せない可能性があるのではないかと印象を持った。そうすると、新庁舎の基本計画で、そこに投資することの不可欠さを強調して、きちんと表現しておかないと、考えが消えてしまうのではないかと、そういう感じを抱いた。
- まちづくりでも明確に防災・バリアフリーネットワークという言葉が出ているのだとしたら、新庁舎の計画でも、将来的に防災・バリアフリーネットワークとの接続、と書かれていた方がわかりやすいのかもしれない。
- 外部状況がどんどん進んでいく、あるいは思った通りには中々進まない部分もあるかと思うが、そういうものに対応して基本計画をまとめていくという事で、最終的なところを迎えている。今日の議論を踏まえて、もう一度見直して、齟齬の無い様に、あるいは見落としの無い様に、再確認して頂きたい。

3 その他

(1) 次回会議日程について

○ 次回会議日程 令和5年1月25日(水)

4 閉会